

第2期 周南市スポーツ推進計画

2025—2034



はじめに

「誰もがいつまでも、

様々な形でスポーツ活動に親しみ、

あつまり、つながるまち」を目指して



本市では、市民が生涯にわたりスポーツ文化に親しむことができるまちづくりを目指し、令和4(2022)年3月に「周南市スポーツ推進計画」を改訂し、『する』『みる』『ささえる』といった様々な形で、生涯にわたりスポーツ活動に親しむことができるまちづくりの基本理念のもと、スポーツの振興に取り組んでまいりました。

少子高齢化など社会情勢の変化に伴い、スポーツ人口の減少や指導者の高齢化、中学校部活動の廃止など、スポーツを取り巻く環境も大きく変化しており、対応が求められています。本市では、令和8(2026)年度の中学校部活動の廃止後に、中学生をはじめ、誰もが気軽に生涯にわたりスポーツ活動に親しみ、楽しむことができる環境づくりや、周南緑地をスポーツ交流等の拠点施設として維持・発展させていくため、PFI方式による民間のノウハウを活用した施設の整備改修や管理運営に取り組んでいるところです。

こうした状況を踏まえ、この度、現計画の満了に伴い、誰もがいつまでも、様々な形でスポーツ活動に親しむことができるまちづくりを目指した「第2期周南市スポーツ推進計画」を策定しました。

本計画を策定するにあたり、ご審議いただいた「周南市スポーツ推進計画策定委員会」の委員の皆様をはじめ、貴重なご意見をお寄せいただきました市民の皆様には心からお礼を申し上げますとともに、今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年 3月

周南市長 藤井 律子

目次

第1章 第2期スポーツ推進計画策定にあたって

1	計画の趣旨	1
2	計画の位置付け	1
3	計画の期間	2
4	計画におけるスポーツの定義	2

第2章 スポーツを取り巻く現状と課題

1	人口の推移と見通し	3
2	小中学生の体力・運動能力の現状	4
3	市民のスポーツに対する意識調査の結果	6
4	前計画の達成状況	13
5	本市の現状と課題	14

第3章 計画の基本理念と取組体系

1	基本理念	16
2	計画の取組体系	16
3	計画の目標指数及び目標値	17

第4章 具体的施策の展開

基本方針1	スポーツ活動の推進	18
基本方針2	スポーツ環境の充実	26

参考資料

1	委員会要綱	38
2	委員会名簿	39

第1章 第2期スポーツ推進計画策定にあたって

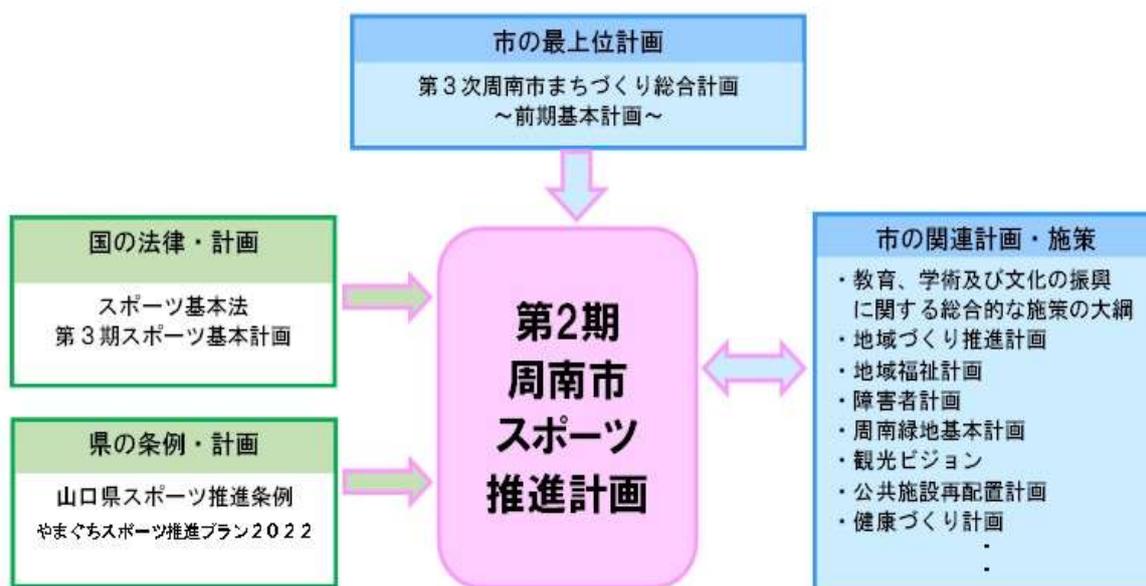
1 計画の趣旨

本市では、市民が生涯にわたりスポーツ文化に親しむことができるまちづくりを目指し、平成27(2015)年度から令和6(2024)年度までを計画期間とする「(第1期)周南市スポーツ推進計画」(以下「前計画」という。)を策定しました。その後、計画策定後に新たに見えてきた課題等を踏まえ令和4(2022)年3月に計画を改訂し、引き続きスポーツの振興に取り組んでまいりました。

日本社会の少子化や高齢化、スポーツ人口の減少や指導者の高齢化、中学校部活動の地域移行など、スポーツを取り巻く環境は大きく変化していることから、令和6(2024)年度末の前計画の満了に伴い、誰もがいつまでも、様々な形でスポーツ活動に親しむことができるまちづくりを目指した「第2期周南市スポーツ推進計画」(以下「本計画」という。)を策定することとしました。

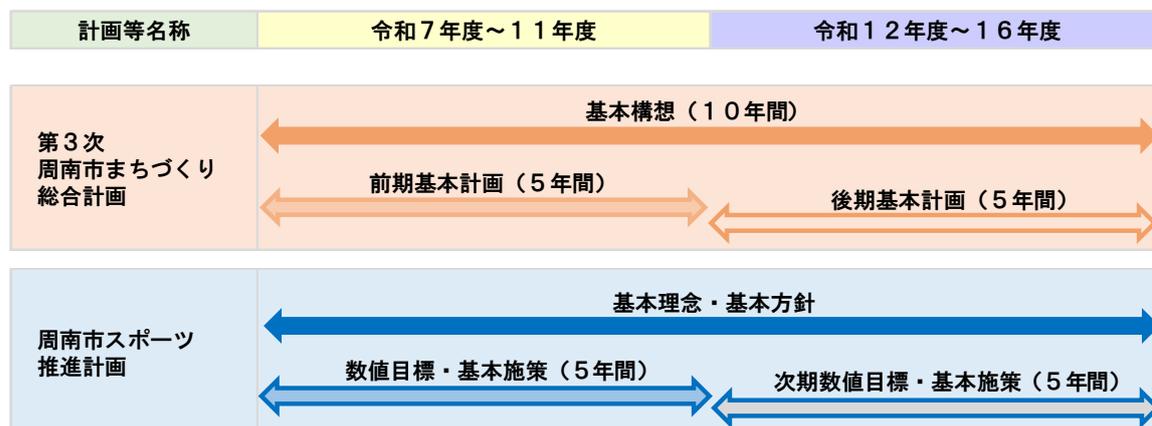
2 計画の位置付け

本計画は、スポーツ基本法第10条に基づき、国の「第3期スポーツ基本計画」(以下「スポーツ基本計画」という。)を参酌した「地方スポーツ推進計画」であり、かつ本市の「第3次周南市まちづくり総合計画」(以下「まちづくり総合計画」という。)の施策を実現するための個別計画です。



3 計画の期間

本計画の期間は、令和7(2025)年度から令和16(2034)年度までの10年とし、スポーツを取り巻く環境の変化に対応するとともに、まちづくり総合計画の基本計画と整合性を図るため、中間見直しを行うこととします。



4 計画におけるスポーツの定義

国のスポーツ基本計画では、スポーツは「する」「みる」「ささえる」という様々な形での「自発的な」参画を通して、人々が感じる「楽しさ」や「喜び」に本質をもつもの、としています。

本計画においても、自分がスポーツを「する」ことだけではなく、スポーツ観戦など「みる」ことや、スポーツ指導者やスポーツボランティア^{※1}、様々なスポーツ関係団体の一員として、スポーツ活動を「ささえる」ことを、すべてスポーツと捉えます。

また前計画と同様に、運動競技だけではなく、余暇や健康のために行われる身体活動、レクリエーション、eスポーツ、野外活動及びキャンプ活動など、幅広い身体活動もスポーツと捉えます。

※1 スポーツボランティア スポーツ大会・イベントの運営のほか、地域のスポーツクラブや団体の指導・運営を支えるなど、スポーツに関わる活動を支援するボランティアのこと。

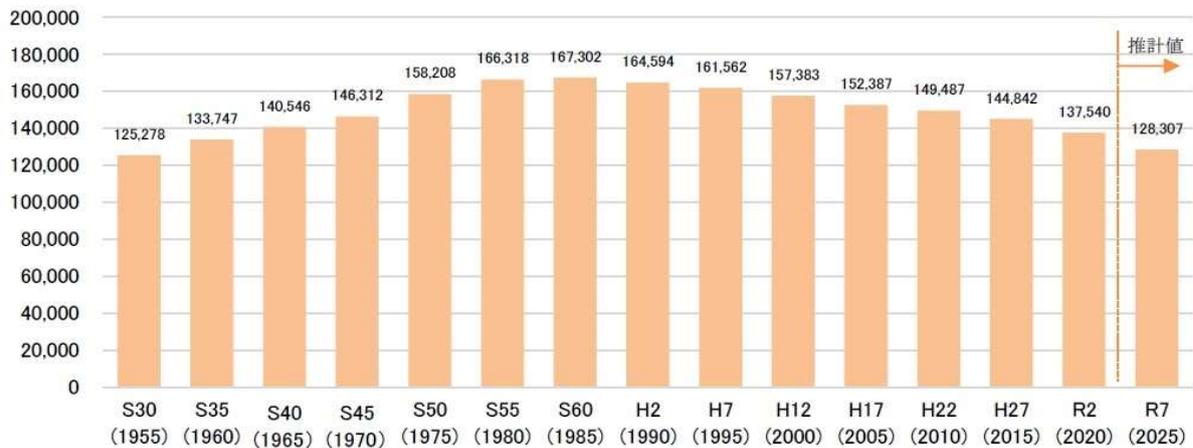
第2章 スポーツを取り巻く現状と課題

1 人口の推移と見通し

本市の人口数は、昭和60(1985)年の約16万7千人をピークに減少が続いており、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、令和7(2025)年は約12万8千人まで減少するとされています。

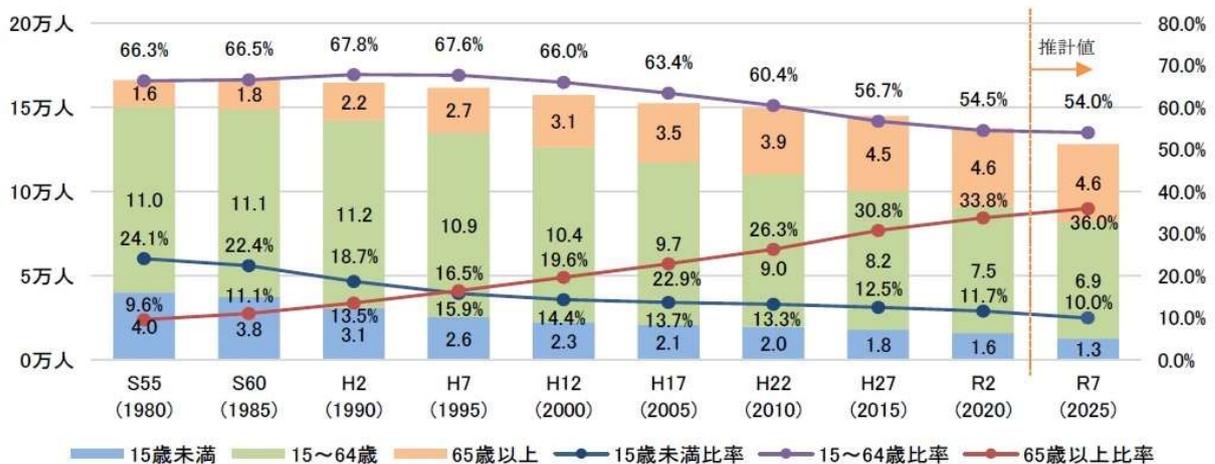
年齢別人口割合の推移でみると、0～14歳人口、15～64歳人口の割合が減少傾向にある一方で、65歳以上人口の割合は増加し続けています。令和2(2020)年の時点で高齢化率は33.8%と、およそ3人に1人が高齢者となってきており、社会構造の変化への対応が必要であることが分かります。

総人口の推移



資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所
 (注) 令和7(2025)年は国立社会保障・人口問題研究所による推計値

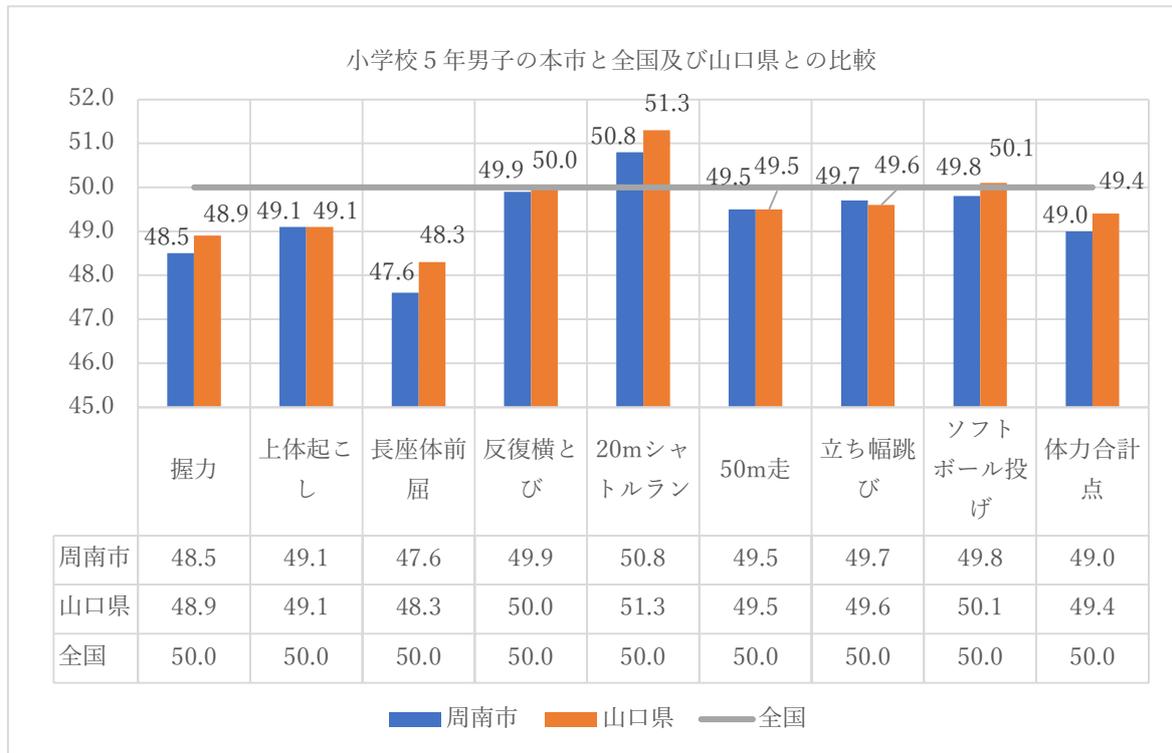
年齢3区分別人口の推移



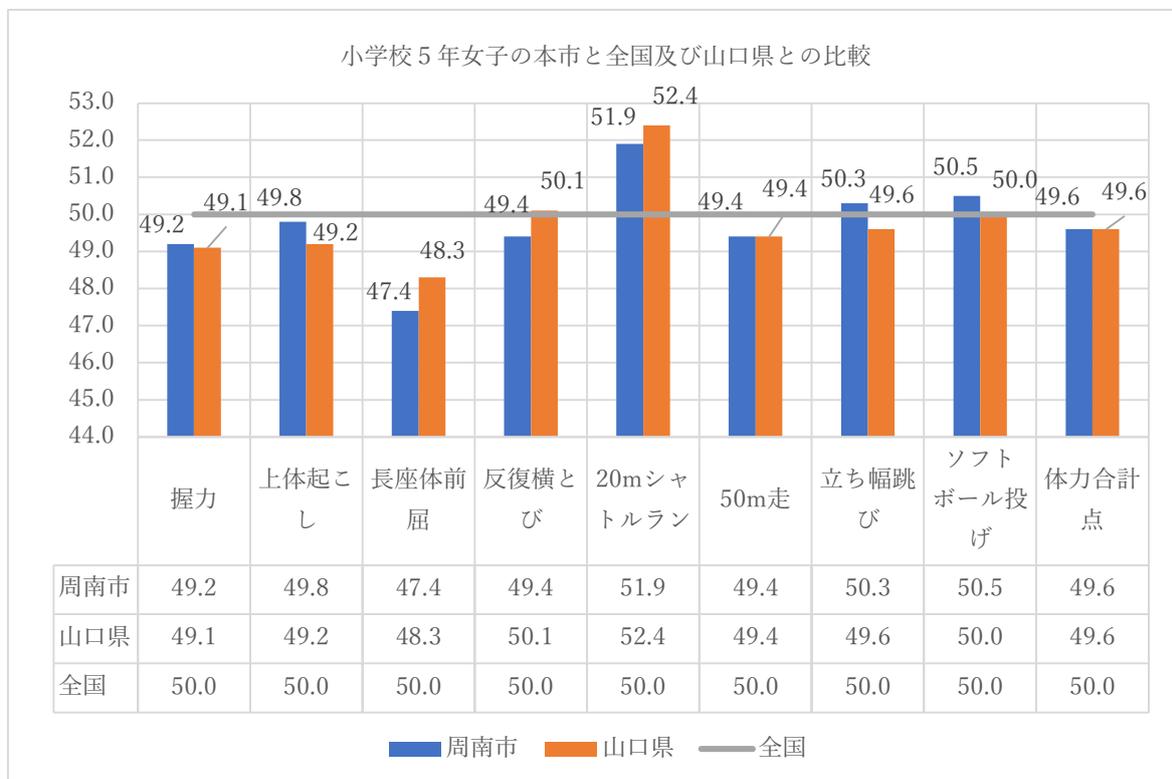
資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所
 (注) 令和7(2025)年は国立社会保障・人口問題研究所による推計値

2 小中学生の体力・運動能力の現状

令和5(2023)年度の本市小学5年生は、男女ともに体力合計点で全国平均点を下回る状況となっています。

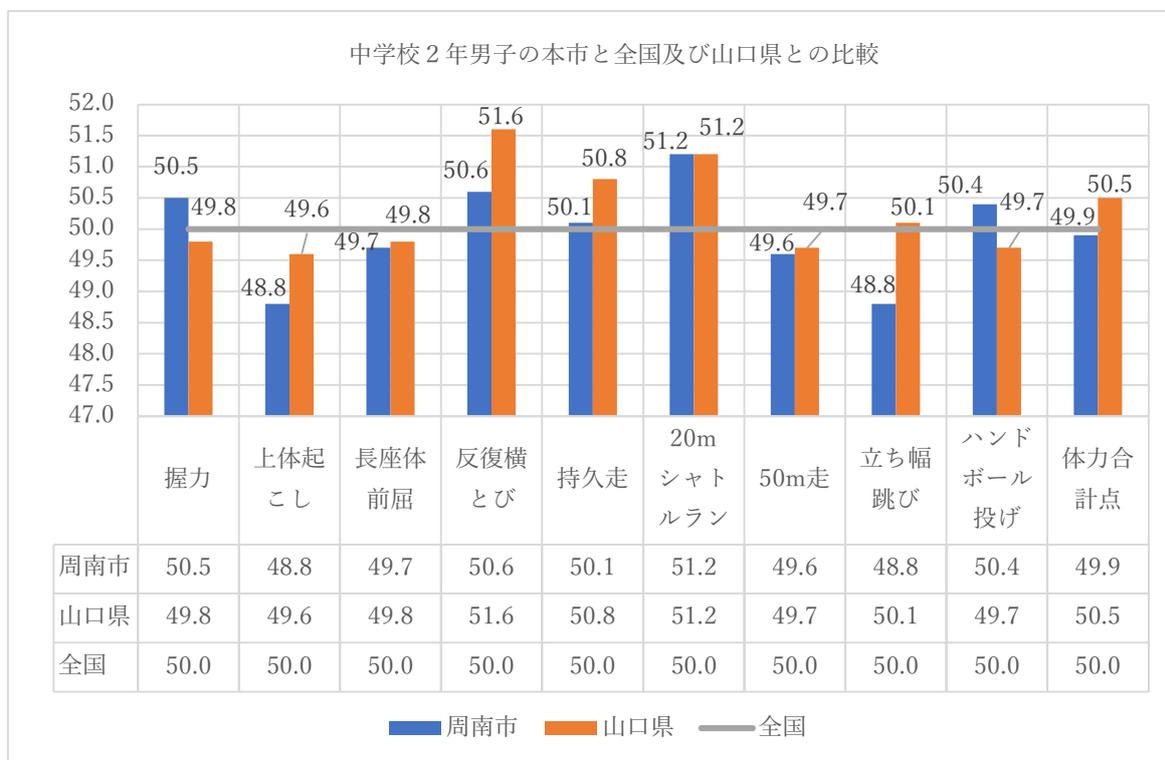


資料：令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

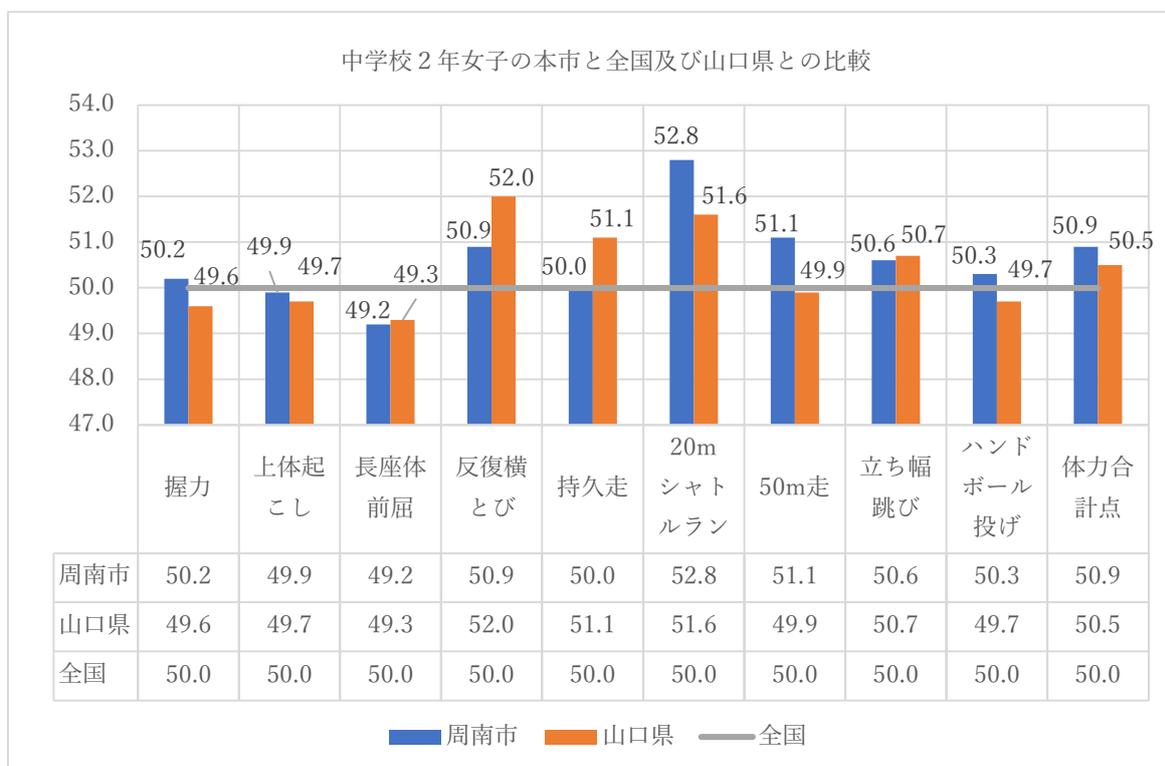


資料：令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

令和5(2023)年度の本市中学2年生は、体力合計点で男子は全国及び山口県平均点を下回るものの、女子は全国及び山口県平均点を上回っています。



資料：令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査



資料：令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

3 市民のスポーツに対する意識調査の結果

【アンケート調査概要】

○調査の目的

市民のスポーツ活動に関する現状と課題を把握し、前計画の振り返りと第2期スポーツ推進計画策定の基礎資料として活用することを目的に、アンケートを実施しました。

○調査の方法

区分	子ども			成人
	小学5年生	中学2年生	高校2年生	
調査対象者	市内27校	市内14校	市内7校	18歳以上の市民 (令和6年4月1日現在)
調査方法	メールにて学校へ配布・ Web回答			郵便による配布・ 郵便回収又はWeb回答
調査期間	令和6年4月19日～令和6年5月31日			
調査数	1,011件	1,103件	1,113件	3,500件(無作為抽出)
有効回答数	654件	957件	236件	1,404件
有効回答率	64.7%	86.8%	21.2%	40.1%

※留意点

- ・表の数値はパーセントで表示しています。
- ・表中の「n=」は、サンプル数（各設問の有効回答総数）です。
- ・回答結果は小数点以下第2位を四捨五入しているため、単回答（複数の選択肢から1つだけを選択する形式）の合計が「100%」にならない場合があります。

※参考※

区分	対象	小学5年生	中学2年生	高校2年生	成人
R1	調査方法	郵便、逕送便にて学校へ配布・回収			郵便による配布・回収
	有効回答数	291件	502件	478件	160件
	有効回答率	100.0%	100.0%	100.0%	32.0%
H25	調査方法	郵便、逕送便にて学校へ配布・回収			郵便による配布・回収
	有効回答数	217件	227件	233件	1,002件
	有効回答率	100.0%	100.0%	100.0%	33.5%

[1] 小中高生への調査結果

設問 スポーツに対する好嫌度

「見る・する 両方好き」の回答が最も多く、小学生・高校生では前回調査より増加しています。

内容	対象	小学5年生			中学2年生			高校2年生		
		平成25年	令和元年	令和6年 (n=646)	平成25年	令和元年	令和6年 (n=957)	平成25年	令和元年	令和6年 (n=236)
見る・する 両方好き		59.0	51.3	57.0	63.7	65.9	61.0	58.6	53.3	61.0
見るのは好き するのは嫌い		12.0	10.8	9.4	11.9	8.3	13.0	14.5	20.0	18.6
見るのは嫌い するのは好き		12.0	11.1	13.0	6.6	5.9	7.3	5.9	5.1	3.4
好きでも嫌いでもない		15.7	24.7	16.3	15.5	16.5	15.4	17.8	18.8	13.6
どちらも嫌い		1.4	2.2	4.3	2.2	3.4	3.3	3.3	2.8	3.4

設問 スポーツ実施頻度

「週3日以上」の回答が最も多いものの、小学生・中学生では前回調査より減少し、高校生では増加しています。

内容	対象	小学5年生			中学2年生			高校2年生		
		平成25年	令和元年	令和6年 (n=648)	平成25年	令和元年	令和6年 (n=957)	平成25年	令和元年	令和6年 (n=236)
週3日以上		56.2	58.6	45.5	82.5	77.1	74.2	43.7	42.8	61.4
週1～2日		27.2	27.6	31.3	5.3	6.2	7.5	5.6	7.0	4.7
月1～2日		5.5	3.8	5.7	2.6	3.0	2.5	5.2	6.6	4.7
ほとんどしない(年1回以上)		9.2	7.6	9.3	7.5	11.0	11.4	27.7	28.3	17.8
全くしない		1.8	2.4	8.2	2.2	2.8	4.4	17.7	15.4	11.4

設問 今後のスポーツ活動意向

年齢が上がるにつれて、「実施したくない」の割合が高くなっています。

内容	対象	小学5年生		中学2年生		高校2年生	
		令和元年 (n=272)	令和6年 (n=633)	令和元年 (n=485)	令和6年 (n=923)	令和元年 (n=477)	令和6年 (n=218)
実施したい		78.7	66.4	64.9	64.1	47.0	47.7
実施したくない		21.3	33.6	35.1	35.9	53.0	52.3

設問 もし近所で気軽にスポーツを行える場があれば参加したいと思いますか？

利用しやすい活動場所があっても積極的には参加しない傾向にあります。

内容	対象	小学5年生		中学2年生		高校2年生	
		令和元年 (n=290)	令和6年 (n=616)	令和元年 (n=309)	令和6年 (n=957)	令和元年 (n=382)	令和6年 (n=236)
積極的に参加したい		39.7	40.4	37.5	33.2	28.8	27.5
どちらともいえない		46.9	44.8	48.5	53.0	51.3	56.8
あまり参加したくない		13.4	14.8	13.9	13.8	19.9	15.7

設問 あなたは過去1年間に、直接、スポーツの観戦に行きましたか？

半数前後が「ほとんど行ったことはない」と回答しています。

内容	対象	小学5年生	中学2年生	高校2年生
		令和6年 (n=648)	令和6年 (n=957)	令和6年 (n=236)
月に1回以上行った		8.5	4.7	2.5
3ヶ月に1~2回くらい行った		6.9	10.0	6.8
年に2~3回くらい行った		13.7	12.1	15.3
年に1回くらい行った		17.7	23.6	29.2
ほとんど行ったことはない		53.1	49.5	46.2

設問 今後、スポーツ活動に関わるボランティアを行いたいと思いますか？

「ぜひ行いたい」と「できれば行いたい」を合わせると、高校生はスポーツボランティアへの参加意欲が前回より若干高くなっています。

内容	対象	中学2年生			高校2年生		
		平成25年 (n=225)	令和元年 (n=445)	令和6年 (n=957)	平成25年 (n=222)	令和元年 (n=444)	令和6年 (n=236)
ぜひ行いたい		12.9	14.9	10.3	5.4	7.4	9.7
できれば行いたい		36.0	36.5	37.4	22.1	22.0	29.2
あまり行いたくない		42.2	34.5	38.7	54.1	49.2	50.0
全く行いたくない		8.9	14.2	13.6	18.5	21.3	11.0

設問 今後、中学校の部活がなくなることを知っていますか？

8割以上の児童が把握しています。

内容	対象	小学5年生
		令和6年 (n=648)
知っている		83.0
知らない		17.0

設問 中学校に進学したときに、部活以外の活動（習い事、クラブ、教室など）をやることについて、ともだちや保護者と話したことはありますか？

「ある」と「ない」がほぼ同数となっています。

内容	対象	小学5年生
		令和6年 (n=645)
ある		51.5
ない		48.5

[2] 市民（成人）のスポーツに対する意識と実態

設問 スポーツを「する」ことに対する好嫌度

「好き」の回答が一番多く、続いて「好きでも嫌いでもない」となっています。

内容	調査年
	令和6年 (n=1261)
好き	47.1
嫌い	9.3
好きでも嫌いでもない	43.6

設問 スポーツ実施頻度

週1日以上のスポーツの実施率は約28.5%で、計画の目標値65%を大きく下回っています。

内容	調査年	令和元年 (n=158)	令和6年 (n=1205)
週3日以上		28.5	12.5
週1～2日		12.0	16.0
月1～2日		10.1	8.6
ほとんどしない(年1回以上)		7.6	34.7
全くしない		41.8	28.2

設問 スポーツの活動状況

前回同様「行いたいと思うができない」の割合が一番多くなっています。

内容	調査年	令和元年 (n=153)	令和6年 (n=1260)
十分に行っており満足している		20.3	9.8
もっと行いたい		14.4	16.0
行いたいと思うができない		37.3	46.4
特に関心がない		28.0	27.9

設問 運動不足感について

回答者の70%以上が運動不足を感じています。

内容	調査年	令和元年 (n=153)	令和6年 (n=1268)
大いに感じる		38.6	34.2
ある程度感じる		45.8	39.5
あまり感じない		14.4	20.3
まったく感じない		1.3	6.0

設問 自身の体力について

回答者の60%以上が体力に不安があると回答しています。

内容	調査年	令和元年 (n=158)	令和6年 (n=1264)
体力に自信がある		3.8	4.0
どちらかといえば体力に自信がある		34.8	29.2
どちらかといえば体力に不安がある		46.8	45.5
体力に不安がある		14.6	21.4

設問 スポーツを「みる」ことに対する好嫌度

60%以上がスポーツを「みる」ことを「好き」と回答しているにも関わらず、「行ったことがない」の回答が約60%となっています。

内容	調査年	令和6年 (n=1259)
好き		63.7
嫌い		2.5
好きでも嫌いでもない		33.8

設問 過去1年間の直接的スポーツ観戦の頻度

内容	調査年	令和6年 (n=1220)
月に1回以上		3.4
3ヶ月に1~2回		4.5
年に2~3回		12.2
年に1回		13.0
行ったことがない		66.9

設問 「行ったことがない」と回答した人がスポーツ観戦を行わなかった理由

「なんとなく機会がないから」の回答が40%であり、直接的スポーツ観戦の場が乏しいことや、スポーツ観戦の習慣がないことが要因と考えられます。

内容	調査年	令和6年 (n=837)
めんどうだから		3.7
なんとなく機会がないから		40.1
体調・健康状態が悪いから		11.2
スポーツや運動が好きではないから		6.5
仕事や家事が忙しいから		18.6
身近に施設や場所がないから		8.0
お金がかかるから		4.9
その他		6.9

設問 テレビやインターネットなどの間接的スポーツ観戦の頻度

「ほとんど毎日見る」「ときどき見る」の回答が70%以上となっています。

調査年	平成25年 (n=972)	令和元年 (n=143)	令和6年 (n=1262)
ほとんど毎日見る	13.0	11.9	16.7
ときどき見る	62.0	49.7	59.5
ほとんど見ない	18.9	28.0	16.3
まったく見ない	6.1	10.5	7.4

設問 スポーツボランティア経験について

「ボランティア経験なし」の回答が90%以上となっています。

調査年	平成25年 (n=不明)	令和元年 (n=136)	令和6年 (n=1261)
ボランティア経験あり	12.5	8.8	7.2
ボランティア経験なし	87.5	91.2	92.8

設問 スポーツボランティア活動への参加意欲

約80%がスポーツボランティア活動に対して前向きではない回答となっています。

調査年	平成25年 (n=306)	令和元年 (n=137)	令和6年 (n=1261)
ぜひ行きたい	3.1	4.4	1.9
できれば行きたい	21.4	17.5	18.2
あまり行いたくない	49.5	52.6	37.4
まったく行いたくない	26.0	25.5	42.4

設問 周南市のスポーツに関する情報の入手方法

「テレビ」「市や県の広報誌など」「友人や知人の口コミ」の順となっています。

調査年	令和6年 (n=1310)
テレビ	30.8
市や県の広報誌など	22.7
友人や知人の口コミ	12.3
インターネット(市や競技団体のホームページ等)	11.8
資料やチラシ	7.3
新聞	5.3
その他	4.4
Facebook、X(旧 Twitter)などのソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)	2.7
ラジオ	2.2
雑誌	0.4
電子メール(メールマガジンなど)	0.2

設問 障害者スポーツの推進に必要なこと

前回も今回も「社会参加しやすい仕組みづくり」が最も多くなっています。

内容	調査年	令和元年 (n=101)	令和6年 (n=1296)
社会参加しやすい仕組みづくり		33.7	29.5
障がいの有無を問わず一緒にできるスポーツ活動		15.8	17.2
指導者・コーチの育成		10.9	14.9
情報提供・広報活動の充実		13.9	12.5
ボランティアの育成		11.9	11.7
バリアフリー施設の整備		17.8	9.8
大規模なスポーツ大会		3.0	3.4
その他		2.0	1.0

設問 中学校部活動の地域移行の認知度

内容	調査年	令和6年 (n=1260)
知っている		47.9
知らない		29.0
聞いたことはあるが内容は知らない		23.1

設問 令和8年に本市の中学校部活動が廃止されることの認知度

内容	調査年	令和6年 (n=1259)
知っている		32.0
知らない		51.2
聞いたことはあるが内容は知らない		16.8

設問 部活動廃止後の中学生が地域のクラブで活動することについて

内容	調査年	令和6年 (n=1240)
賛成		39.8
反対		10.8
よくわからない		45.4
その他		4.0

4 前計画の達成状況

前計画では、『する』『みる』『ささえる』といった様々な形で、生涯にわたりスポーツ活動に親しむことができるまちづくり」を基本理念に、市民一人ひとりがスポーツに親しみ、楽しむことができる社会の実現を目指しました。

この基本理念の実現に向け、「スポーツ活動の推進」「スポーツ環境の充実」「スポーツ交流の推進」の3つの基本方針に基づいて施策を推進しました。

しかしながら、コロナ禍の影響等により、前計画の掲げた目標指数については、実績値を正しく評価することが難しい状況にあります。

目標指数	目標値	実績値	
	前計画最終年 令和6年度 (2024年度)	前計画策定時 令和元年度 (2019年度)	現状 令和5年度 (2023年度)
成人のスポーツ実施率(週1回以上)	65.0%	40.2%	28.5%
スポーツ少年団加入率	50.0%	47.2%	40.1%
地区スポーツ事業への参加者数	40,000人	28,473人	14,342人
中国大会以上の大規模大会の誘致数	50大会	27大会	29大会
スポーツボランティアの登録者数	200人	110人	107人
スポーツ施設利用者数(指定管理施設)	750,000人	639,836人	373,658人

※成人のスポーツ実施率の令和5年度現状値は、令和6年度実施の意識調査から引用しています。

5 本市の現状と課題

前計画の達成状況や市民意識調査の結果などから、本市スポーツの現状と課題を前計画の施策体系に沿って整理しました。

1 スポーツ活動の推進

【現状】

- ・ 少子高齢化の進展やライフスタイルの変化に伴い、スポーツ活動のニーズが一層多様化する中で、誰もが気軽にスポーツ活動を楽しめるスポーツ大会を開催しました。
- ・ 中学校部活動が廃止されることを契機に、「スポーツ活動サポートセンター」（以下「センター」と言う。）を設置し、活動団体の立ち上げや指導者の活動支援制度の構築に取り組みました。

【課題】

- ・ 市民誰もが、生涯にわたってスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、スポーツをささえる活動に参画できるよう、多様なニーズに応えられる新たな環境整備が求められています。 ⇒対応する取組 P18, 21, 22, 30
- ・ 人口減少に伴って競技人口も減少していく中で、各競技団体の存続が危ぶまれる事態が想定されることから、活動団体を支援する取組が必要です。 ⇒対応する取組 P24
- ・ 中学生が将来にわたりスポーツ活動に継続して親しみ、楽しむことができる機会を、しっかり確保する必要があります。中学校部活動の廃止により懸念される「中学生のスポーツ人口の減少」と、それに伴う「体力の低下」に対し、幼児期からの運動機会を創出し、スポーツ活動を継続して行う子どもを増やす取組が必要です。 ⇒対応する取組 P24, 30

2 スポーツ環境の充実

【現状】

- ・ P F I^{※2}手法を用いた「周南緑地整備管理運営事業」を令和5（2023）年度から展開し、周南緑地内の体育施設の計画的な改修・整備に取り組みました。

【課題】

- ・ 老朽化が進むスポーツ施設を今後も安全で快適に利用するために、P F I事業の対象外の施設についても計画的な改修が求められており、特に野球場は大規模改修の早急な実施が必要です。 ⇒対応する取組 P26

※2 P F I（Private Finance Initiative） 公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法のこと。

3 スポーツ交流の推進

【現状】

- ・公益財団法人周南市スポーツ協会（以下「スポーツ協会」という。）等との連携により、移動制限があったコロナ禍においても可能な限り大会を誘致するとともに、市外から多くの参加者を集めることで、スポーツコンベンション^{※3}による地域経済の活性化に貢献しました。

【課題】

- ・今後も大規模大会等の誘致やトップスポーツの観戦機会の提供、スポーツコンベンションによる交流人口の拡大と賑わいの創出等に取り組む必要があります。

⇒対応する取組 P34, 36



※ゼオンアリーナ周南（令和6年7月撮影）

※3 スポーツコンベンション スポーツを軸に、競技大会、合宿、イベントなどを開催し、地域活性化やスポーツ振興を図る取組

第3章 計画の基本理念と取組体系

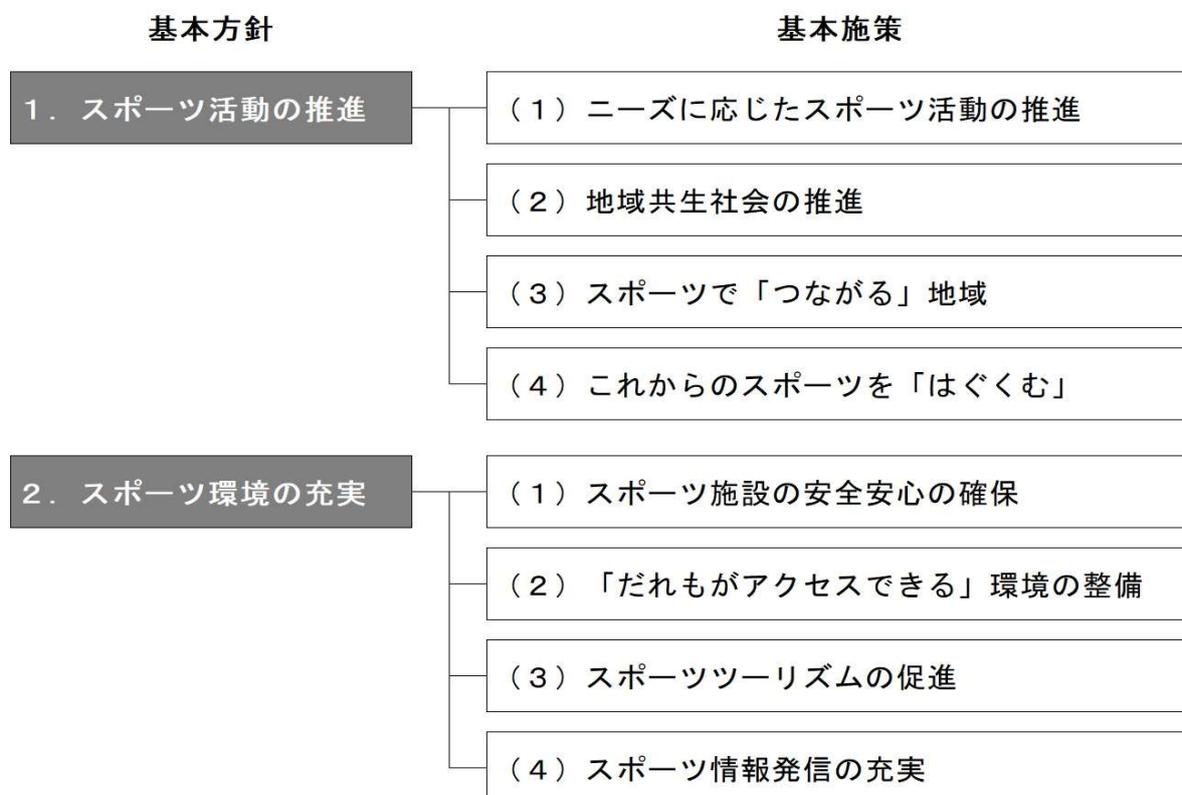
1 基本理念

誰もがいつまでも、
様々な形でスポーツ活動に親しみ、
あつまり、つながるまち

年齢や性別、障害、経済・地域事情などの違いに関係なく、すべての市民が、自分にあった形でスポーツ活動に親しみ、あつまり、つながることの実現を目指し、スポーツ協会、周南市スポーツ推進委員協議会、周南市スポーツ振興委員会、公立大学法人周南公立大学や各種競技団体等、スポーツに関わる様々な団体と連携し取組を進めます。

2 計画の取組体系

基本理念の実現に向け、2つの基本方針と8つの基本施策を定め、それぞれの方針に沿って施策を進めていきます。



3 計画の目標指数及び目標値

本計画の施策は中間見直しを行うことを予定していることから、数値目標の設定年度を令和11(2029)年度とします。

目標指数	現状値 令和5年度 (2023年度)	目標値 令和11年度 (2029年度)
成人のスポーツ実施率(週1日以上)	28.5%	70.0%
中学生のスポーツ実施率(週1日以上)	81.7%	82.0%
地区スポーツ事業への参加者数	14,342人	20,000人
中国大会以上の大規模大会の誘致数	29大会	40大会
スポーツボランティアの登録者数	107人	150人
スポーツ施設利用者数(指定管理施設)	373,658人	500,000人
地域クラブ登録団体数	—	130団体

※成人と中学生のスポーツ実施率の現状値は、令和6年実施の意識調査から引用しています。



※周南市誕生20周年記念「夏季巡回ラジオ体操・みんなの体操会」[令和5(2023)年8月24日開催]

第4章 具体的施策の展開

基本方針1 スポーツ活動の推進

(1) ニーズに応じたスポーツ活動の推進

より多様化する市民のニーズやライフステージに応じたスポーツ活動の推進に取り組みます。

【取組内容】

●誰もが参加できるスポーツイベント等の開催（事例紹介：P19①）

市民意識調査によると、18歳以上の市民は、スポーツを「ほとんどしない」「全くしない」が62.9%、またスポーツを「行いたいと思うができない」が46.4%となっています。市民のライフスタイルは多様化していることから、誰もが気軽に参加でき、運動習慣の必要性を認識することでスポーツ活動を始めるきっかけとなる機会の提供に取り組みます。

●幼児期や学童期の運動の習慣化（P19②）

子どもたちの運動の習慣化につながるよう、ACP（アクティブ・チャイルド・プログラム^{※4}）の普及や、ボートレース徳山で開催される「あそらぼ^{※5}」などの運動遊びを推進し、遊びを通じてスポーツに親しめる環境を提供していきます。

●女性がスポーツに参加しやすい環境づくり

女性のスポーツ実施率、スポーツ団体における役員及び指導者の割合が低いことから、スポーツ協会女性スポーツ委員会等と連携し、女性が生涯にわたりスポーツ活動に参加しやすい環境の整備や、子供を持つ女性が親子で一緒にスポーツに取り組める機会の充実に努めます。

●高齢者への運動機会の提供（P20③④）

高齢者が参加可能な身近な環境で、無理なく日常的に、気軽に取り組むことができる運動機会の提供や、庁内の関係部署やスポーツ推進委員協議会、スポーツ振興委員会などと連携したスポーツイベントの開催に取り組みます。

※4 ACP（アクティブ・チャイルド・プログラム） 日本スポーツ協会が開発した、子どもたちが楽しみながら積極的にからだを動かし、発達段階に応じて身につけておくことが望ましい動きを習得する運動プログラムのこと

※5 あそらぼ ボートレース徳山が BOATRACE（ボートレース）振興会と連携して市内に住むファミリー層へ提供している、体幹やバランス感覚が養われる遊びの場のこと

① しゅうなんスポーツフェスタ

毎年10月のスポーツの日に、幼児から高齢者まで幅広く参加できる体験型イベント「しゅうなんスポーツフェスタ」を開催しています。特に子どもたちに、様々なスポーツを体験し、スポーツに興味をもってもらえるように、趣向を凝らしたブースを設置しています。



② 幼児期からの運動遊び

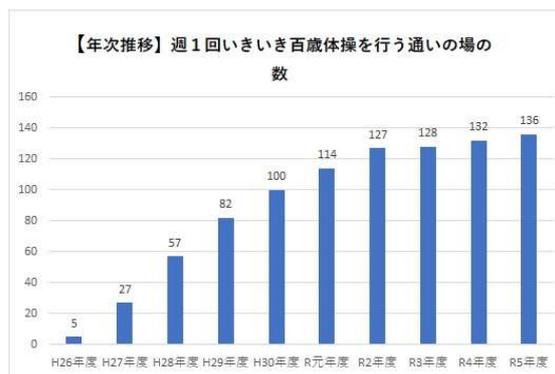
ポートレース徳山と徳山駅前図書館では、大型遊具や知育玩具による遊びの場を提供し、遊びを通じた子どもたちの体力や筋力、バランス感覚などの育成や、体を動かすことへの興味・関心を高めることに役立っています。



③ 周南市版いきいき百歳体操

いきいき百歳体操は、おもりを手首、足首につけて行う筋力運動で、週一回以上実施すると、介護予防に効果的と実証されています。市内では、令和6(2024)年3月31日時点で、136箇所・約1,600人の高齢者が参加しています。

要支援者や認知症の人など、誰でも参加することができ、高齢者の閉じこもり予防や自然な助け合いにつながっています。



④ 多世代で楽しめるニュースポーツの普及活動

スポーツ推進委員協議会では、ニュースポーツを中心とするスポーツレクリエーションに関する情報を提供し、様々な世代の実情に合った的確な指導を行うことで、体を動かし汗を流すことの爽快感を多くの人々が享受し、日々の生活にスポーツを取り入れていくためのサポートをしています。



(2) 地域共生社会の推進

スポーツを通じた地域共生社会の推進のため、年齢・性別・障害の有無にかかわらず、誰もが気軽にスポーツ活動を楽しめる環境づくりに取り組みます。

【取組内容】

●障害者スポーツを楽しめる機会や情報の提供 (P21①)

障害者がスポーツに親しめる機会の提供や、障害者スポーツの指導者の育成を支援するとともに、市民との交流機会の提供に努めます。

●人材の確保

(公社) 山口県障害者スポーツ協会と連携し、障害者スポーツ指導員の資格取得等、ボランティアの人材育成の支援や、福祉に関心のある学生へのボランティア参加の周知などの情報発信、体験機会の提供に努め、障害者スポーツの推進に重要な「ささえる」人材の確保に取り組めます。

① 市民パラトリム大会

「市民パラトリム大会」は、障害の有無にかかわらず、皆が一緒にスポーツを楽しむイベントです。このイベントが、障害のある方のスポーツ活動のきっかけとなるだけでなく、スポーツを通じた交流が生まれ、共生社会の実現にもつながると考えています。



(3) スポーツで「つながる」地域

スポーツを通じて地域の活性化を図るため、各地区のスポーツ振興委員会等の活動の支援やスポーツボランティアの育成、地域間交流など、スポーツを通じた交流に取り組めます。

【取組内容】

●スポーツを通じた地域活性化 (P22①、P23②③④)

スポーツ協会と連携したスポーツ少年団活動の充実や、各地区のスポーツ推進委員やスポーツ振興委員会、総合型地域スポーツクラブ等の活動を支援するとともに、地区内外の団体との連携を支援し、スポーツを通じた交流や地域活性化に取り組めます。

●地域の特色を活かしたスポーツイベント等の開催や支援 (P23③④)

市内で開催される地域の特色を活かしたスポーツイベントの開催や、アウトドアスポーツによる交流を促進することで、地域のつながりの形成や参加者の健康増進、地域の魅力発信、地域の様々なスポーツ活動の活発化につながる取組を推進します。

●スポーツボランティアの育成・支援

センターは地域のあらゆる市民やスポーツ団体と関わる中でスポーツボランティアの周知やPRを図るとともに、学生など若い世代にスポーツボランティアに興味をもってもらえるような仕組みづくりに努め、幅広い世代のスポーツボランティアの育成や支援に取り組めます。

① スポーツ少年団活動

令和5(2023)年度の登録実績で、17種目94団体に約1700人が所属し、活動しています。少子化や、ニーズの多様化により団員数が減少していますが、今後、中学生のスポーツ活動の選択肢の一つとなりますので、活動の活性化が見込まれます。



② スポーツ推進委員による出前スポーツ塾

多世代に対し、ニュースポーツなどの指導や人材育成のためにイベント運営の手ほどきを行うなど、受講者に体を動かし汗を流すことの爽快感を提供し、日々の生活にスポーツを取り入れていくためのサポートを行っています。



③ くまげ鶴の里ウオーク大会

本州唯一のナベヅルの渡来地の八代で、地域の特性を生かした大会を開催し、地区内外から多くの参加者で賑わっています。



④ 歩いて健康！歩いて発見！福川歴史探訪ウォーク

気軽にウォーキングをしながら地域の史跡の見学を行い、身近な運動を習慣化することと、地域の魅力発見や愛着心の醸成につなげています。



(4) これからのスポーツを「はぐくむ」

スポーツ協会や周南公立大学、県等と連携し、活動団体の立ち上げや活動の支援、指導者の活動支援を通じた選手・指導者の育成を行い、次世代アスリートの育成・強化を計画的に行います。また、スポーツ推進委員をはじめとした地域のスポーツ活動の核となる人材の発掘、育成に努めます。

【取組内容】

●関係団体との連携

県や関係団体等と連携し、総合型地域スポーツクラブを始めとした活動団体の立ち上げや指導者の活動支援を通じた選手・指導者の育成を行い、次世代アスリートの育成・強化を計画的に行うとともに、高齢者・障害者・成人など、あらゆる属性の方がスポーツ活動に参加できるよう、地域のスポーツ活動の核となる人材の発掘、育成に努めます。

●指導者や選手の育成 (P24①)

健康やスポーツに関する幅広い知識・技能をもつさまざまな機関と連携し、選手の育成に取り組むとともに、地域におけるスポーツ活動の中心を担う指導者の育成やスポーツ推進委員によるニュースポーツの普及に取り組みます。また、スポーツ・インテグリティ^{※6}の確保に向けてセンターで研修を実施します。

●選手・団体の活動支援 (P25②③④)

全国大会に出場する選手・団体に対する祝い金の交付や、全国大会等で優秀な成績を収めた選手の表彰などを引き続き実施し、向上心の醸成やスポーツの奨励を図ります。

① スポーツ教室の開催

各競技のアスリートやトップチームによるスポーツ教室を開催しています。



※6 スポーツ・インテグリティ スポーツにおける誠実性・健全性・高潔性のこと。具体的にはドーピングや八百長、違法賭博、暴力、ハラスメント、差別、団体ガバナンスの欠如等の不正が無い状態を指す。

② スポーツ栄光賞

スポーツの関心や競技力の向上を図るため、毎年大会において優秀な成績を収めた市民や団体を表彰しています。



③ 横断幕の掲出

市民等が国際規模の大会へ出場した場合や、国際規模もしくは全国規模の大会に優勝した場合に、横断幕等を掲出しています。



④ 祝金の交付

本市のスポーツ振興・発展を図るため、全国大会等へ出場する市民及び団体に対し、祝金を交付し祝意を表しています。

	団体	個人	支給額
R元(2019)年	21 団体(279 人)	138 人	1,515,000 円
R2(2020)年	6 団体(97 人)	11 人	235,000 円
R3(2021)年	26 団体(228 人)	107 人	1,125,000 円
R4(2022)年	18 団体(169 人)	216 人	1,650,000 円
R5(2023)年	32 団体(331 人)	242 人	2,265,000 円

基本方針 2 スポーツ環境の充実

(1) スポーツ施設の安全安心の確保

安全安心を確保したスポーツ環境を維持するため、周南緑地ではPFI方式による施設の維持管理運営及び整備・改修に取り組むとともに、その他の体育施設についても、ライフサイクルコスト^{※7}等に配慮し計画的な整備や大規模改修に取り組めます。

【取組内容】

●民間のノウハウを活用した周南緑地体育施設の管理・運営

市民が周南緑地内の体育施設を安全安心に利用でき、スポーツ活動を快適に楽しめるよう、PFI方式により民間のノウハウ等を活用した施設の維持管理運営及び整備・改修に取り組めます。

●その他の体育施設の安全安心の確保

本市の施設の多くは老朽化が進んでおり、耐用年数を迎えているものもあることから、ライフサイクルコスト等に配慮し、適切な維持管理や計画的な整備、大規模改修に取り組めます。また、不足するスポーツ施設を補完するため、民間施設の活用や連携によるスポーツ振興に取り組めます。

●熱中症対策

近年の気候変動により、特に夏は生命に危険が及ぶほどの猛暑が日常化してスポーツ活動が困難になることから、給水スポットやグラウンドへの夜間照明、体育館への扇風機等の設置を検討します。

※7 ライフサイクルコスト（LCC） 施設の建設に必要なコストほか、運営に係る光熱水費や保守点検関係費などの維持管理費、解体経費等、建物のライフサイクル（建設から解体まで）に係る経費のこと

◆ 周南緑地体育施設等整備管理運営事業について ◆

周南緑地は、高速道路のインターチェンジ、国道2号、JR徳山駅からのアクセスが良い場所にあることから、多くの体育施設が設置されており、本市のスポーツコンベンションの拠点施設となっています。しかしながら、施設の老朽化が年々進み、施設の機能面において利用者のニーズへ対応することが難しくなったため、PFI方式により、リニューアル工事を実施しています。

PFI方式を導入することで、財政負担の平準化とともに事業費の削減が見込まれるほか、民間のノウハウや創意工夫を活かした維持管理・運営により、サービスの向上や利用者の増加、賑わいの創出などの効果が表れています。

事業期間は令和5（2023）年度からの19年間で、令和8（2026）年度までの間に、不足している駐車場の整備、公認第3種の陸上競技場への改修、サッカー場の人工芝敷設、庭球場の人工芝張替、総合スポーツセンターの外壁や屋根の改修及び照明のLED化、屋内水泳場の新設などを集中して行ってまいります。



※改修前の陸上競技場（令和6年7月撮影）

◆ 改修される主な施設の紹介 ◆

※丸数字は P29 の下の図に対応

②陸上競技場、③ランニングコース

陸上競技場は管理棟（スタンド屋根含む）の改築工事、トラックは全天候舗装の敷設、インフィールドは投てき可能な人工芝の敷設を行い、中国大会規模の大会開催が可能な公認第3種競技場に改修します。



①新水泳場

自動車学校跡地（現在は臨時駐車場として使用）に通年利用可能な25mプールと幼児用プールの屋内水泳場を整備します。施設内にトレーニングができる健康ルームを設置します。

また、近隣の小学校の学校プールと共用化し、学校水泳授業を実施する予定です。



⑫サッカー場、⑩庭球場

サッカー場は人工芝の敷設・観覧席の設置等のリニューアル工事、
庭球場は老朽化している既存の人工芝の張替え工事を行いました。



④陸上競技場西駐車場、⑤野球場東駐車場、⑧総合スポーツセンター北西駐車場

完成後は、これまでの約600台に対し2倍の約1,200台が駐車
可能となります。



(2)「だれもがアクセスできる」環境の整備

令和7（2025）年度にセンターを開設し、中学校部活動の受け皿にとどまらず、市民だれもが、生涯にわたりスポーツができる環境整備の中核となるよう取り組みます。

【取組内容】

●中学生等が地域でスポーツができる環境の実現

令和8（2026）年度中に中学校部活動が廃止され、中学生等は「周南市地域クラブ」を始めとする様々な団体の活動の中から自分のやりたい活動を選択し、参加することとなるため、令和7（2025）年度に開設するセンターに各団体の情報を集約し、市内すべての中学生等の「やってみたい」に応えられる環境づくりに取り組みます。

●多世代の交流をもとにしたスポーツ活動による地域活性化の促進

中学校部活動の地域移行を契機に、地域の様々なスポーツ団体に中学生等の若い世代が入って活動していくことから、指導者や団体の発掘・支援を行い、多世代の交流による地域活性化・地域づくりにつなげるとともに、中学生等が将来的に地域の担い手として活躍することを目指します。

①部活動の地域移行に向けて開催されたスポーツ活動体験会の様子



◆ 本市が目指すスポーツによる元気なまちづくり ◆

少子化、高齢化の進展と人口の減少は、日本社会が抱える深刻な課題です。今後、我が国の人口減少と共にスポーツ人口も減少することが予測され、スポーツ振興に関して様々な面で影響を受けることとなります。

更には、令和8（2026）年度の中学校部活動の廃止により、何も活動をしていない生徒の割合が増加することで、「中学生の体力低下」「スポーツ文化の衰退」が心配されることから、地域の様々な団体が実施主体となる「周南市地域クラブ」と中学生をつなぐマッチング機関として、令和7（2025）年度にセンターを開設し、中学校進学後も継続的にスポーツ活動を行い、健やかで楽しい生活が営めるように、「幼少期からのスポーツ体験の強化」「スポーツ少年団の活動支援」などに引き続き取り組めます。

- 市とセンターは各世代におけるスポーツとの関わりを生み出すために、
- ・幼児期の子どもが遊びを通じて体を動かすことが好きになるよう、ＡＣＰや運動遊びを推進し、体験できる機会を提供する。
 - ・小学校から高校までの児童・生徒が、様々なスポーツに親しむことができるよう、身近な総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団、地域クラブ等に参加しやすい環境を実現する。
 - ・様々な世代の成人が、「する」「みる」「ささえる」の多様な形でスポーツに関われるよう、スポーツクラブやスポーツイベントに参加しやすい環境の構築や、市内で開催されるトップチームの試合の情報提供、スポーツボランティアの育成等を行う。

これらの取組を通じて、あらゆる市民をスポーツによって健康にするとともに、スポーツによって仲間ができ、地域の交流が深まっていく、元気なまちづくりに繋げていきます。

こうしたスポーツが生涯を通じて生活の一部になるような環境づくりの実現のため、中学校部活動の地域移行をスポーツによる多世代交流実現のチャンスと捉え、周南公立大学など本市が持つあらゆる資源を活用しながら、センターを中心に市内のスポーツ団体と連携し、スポーツ活動をサポートすることで、市民とスポーツを結びつけることに取り組めます。

◆ 周南市地域クラブについての説明 ◆

部活動の地域移行について

少子化の進展によって、市内中学校においても、学校部活動の選択肢が少なくなっており、中学生のやりたい部活動が選べなくなりつつあります。このため、本市では令和8（2026）年度から平日・休日ともに学校部活動を廃止し、中学生のやりたい活動ができる環境整備として「周南市地域クラブ」の体制づくりを進めます。

地域クラブの実施者について

文化芸術活動の事務局として、公益財団法人周南市文化振興財団内に「かるちゃあサポートセンター」を、スポーツ活動の事務局として公益財団法人周南市スポーツ協会内に「スポーツ活動サポートセンター」を設置し、地域の文化芸術・スポーツ団体の登録を進めます。

地域クラブは、両センターに登録された団体が主に実施します。

中学生を受け入れ可能な地域クラブについて

令和7（2024）年3月時点で56団体の登録があり、競技は以下のものがあります。

- バレーボール ■バスケットボール ■ハンドボール ■サッカー
- ラグビーフットボール ■軟式野球 ■硬式テニス ■ソフトテニス
- 卓球 ■バドミントン ■陸上競技 ■剣道 ■柔道 ■相撲
- レスリング ■空手道 ■少林寺拳法 ■格闘技 ■eスポーツ
- 体づくり ■ダンス

詳細は、スポーツ活動サポートセンターのホームページをご覧ください。

地域クラブへの参加費について

スタッフの報酬や保険に係る経費、共通の道具費等が生じることから、各活動団体が継続的に活動していくために、保護者の方に月会費や年会費、材料費として一定の金額をご負担していただく必要があります。具体的な金額については、各地域クラブが設定します。

部活動と地域クラブの選択について

現在の学校外の活動等と同様に、部活動と地域クラブ、両方に参加することも、いずれか一つに参加することもでき、選択の方法は自由です。移動や負担する会費などを保護者の方とよく相談し、どこの活動に参加するかを決めてください。

他の学校区の地域クラブへの参加について

これまでは所属する中学校の部活動に参加することとなっていました。が、地域クラブではそういった制限はなく、学区外の団体の活動にも自由に参加できます。

地域クラブへの移動手段について

活動場所へは、原則各自での移動となります。

スポーツクラブ等が地域クラブに団体登録する際の条件について

- ①周南市に活動拠点を持つ文化芸術・スポーツ団体または個人であること
 - ②政治活動、宗教活動、その他文化・芸術・スポーツ以外を目的とした団体又は個人ではないこと
 - ③公序良俗に反する及び暴力団との関係のある団体又は個人ではないこと
 - ④周南市文化振興財団・周南市スポーツ協会の事業運営に可能な限り協力し、財団・協会の名誉の毀損や信用失墜行為を行わないこと
- などがあります。詳しくはセンターにお問い合わせください。

地域クラブへの申込について

下記のホームページに、地域クラブに関する情報が掲載されますので、ご自分で団体に連絡して見学や申し込みをして下さい。

【スポーツ活動サポートセンター】

(公財) 周南市スポーツ協会内

TEL : 0834-28-0006

HP : <https://www.shunansupport.com/>



(3) スポーツツーリズムの促進

スポーツコンベンションや地域の多彩な観光資源とスポーツを結び付けたスポーツツーリズムの促進、大規模大会等の誘致によるトップレベルの選手のプレーを見る機会の提供に取り組みます。

【取組内容】

●大規模大会の誘致

スポーツ協会が実施するスポーツへの関心や競技力の向上を図るための事業について、取組を支援します。

スポーツコンベンション推進のため、全国大会等の誘致、開催に対し補助金を交付します。

●トップスポーツの招致

スポーツ協会や周南緑地体育施設等の指定管理者等と連携し、トップアスリートによるスポーツ教室やスポーツイベントを開催することで、市民がトップレベルのスポーツを身近に感じることができる機会の提供に取り組みます。また、県外から多くの参加者が見込まれる大規模大会等の誘致に努め、大会の開催を広く周知することで市民のスポーツへの関心を高めるとともに、地域経済の活性化につなげます。

●キャンプ場を活用したスポーツツーリズムの推進

高瀬サン・スポーツランドやせせらぎ・豊鹿里パークなどのキャンプ場を活用し、アウトドアアクティビティと周辺地域での観光を連携させたスポーツツーリズムに取り組みます。



【Wリーグ(バスケットボール女子日本リーグ)】



【日本ハンドボール選手権大会】



【バドミントン S/Jリーグ】



【倉敷アブレイズ エキシビジョンマッチ】



【スポーツひのまるキッズ中国・四国小学生柔道大会】



【オリンピック選手・市川良子さん 陸上教室】



【せせらぎパーク】



【高瀬サン・スポーツランド】

(4) スポーツ情報発信の充実

スポーツへの参画の在り方の多様化が進んでいることから、各種大会やイベント、講演会などの情報を求めている人に的確に提供できるよう、効果的な情報発信に努めます。

【取組内容】

●効果的な情報発信 (P36①)

多くの市民がスポーツに参加できるよう、スポーツイベントや団体、施設の情報を、市の広報やホームページ、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）、スポーツ協会が作成するスポーツ情報誌「スポーツ周南」など多様な媒体を活用して発信します。

●文化とスポーツを組み合わせた情報発信 (P23③④)

本市には、魅力的な文化財や史跡が数多くあることから、史跡めぐりウォーキングなど、文化とスポーツを組み合わせた新たな提案に取り組みます。

① 【2024.8 広報しゅうなん】

スポーツチーム紹介

周南市で活躍するスポーツチームを応援しよう!

地域活性化への取り組み
小・中学校での訪問授業やハンドボール教室(出張GUTS)、小・中学生を対象としたハンドボール大会(YMGUTS杯)、湯野温泉観光PR大使や消防本部一日指令課長の就任の他、地域行事にも積極的に参加し、スポーツを通して地域を元気にする活動を行っています。

東佑三監督からのメッセージ
YMGUTSは仕事とスポーツを両立しながら活動しています。地域貢献や次世代育成も積極的に行い、地域の皆さんに愛されるチームを目標としています。本市は山口国体で競技会場になるなど、ハンドボールが根付いた街です。ハンドボールの文化をさらに盛り上げられるように頑張ります。

今後の大会

- ▶8月9日～11日…ジャパンオープンハンドボールトーナメント(滋賀県)
- ▶8月24日～25日…国民スポーツ大会中国ブロック大会(島根県)
- ▶10月19日～20日…日本ハンドボール選手権大会中国地区大会(岡山県)

詳しくはこちら▶

問合せ スポーツ振興課 ☎0834-22-8624

参考資料

◇委員会要綱

◇委員会名簿

○周南市スポーツ推進計画策定委員会設置要綱

平成 25 年 4 月 1 日 要綱第 9 号

(設置)

第1条 本市におけるスポーツの推進に関する施策を体系的に、かつ、計画的に推進するため、周南市スポーツ推進計画策定委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会の所掌事務は、周南市スポーツ推進計画(以下「計画」という。)の策定に関することとする。

(組織)

第3条 委員会は、委員 10 人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者をもって構成する。

- (1) スポーツ関係者
- (2) 教育、行政機関関係者
- (3) 学識経験を有する者
- (4) 公募委員

(任期)

第4条 委員の任期は、計画の策定が完了するまでとする。

2 関係機関の役職等をもって選任された者にあつては、その職にある期間までとし、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 委員会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。

3 会長は、委員会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは会長の職務を行う。

(会議)

第6条 会長は、委員会の会議(以下「会議」という。)を招集し、議長を務める。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が決するところによる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、スポーツ担当課において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

○周南市スポーツ推進計画策定委員会委員名簿

役職	氏名	所属	備考
会長	瀬尾 賢一郎	周南公立大学 人間健康科学部	准教授
副会長	明石 和憲	周南市スポーツ推進委員協議会	会長
委員	近藤 優子	(公財)周南市スポーツ協会	女性スポーツ委員会委員長
委員	藤本 真樹	鹿野スポーツ振興会 (総合型地域スポーツクラブ)	会長
委員	徳原 峰男	周南市スポーツ振興委員会	会長
委員	末長 裕昌	周南市スポーツ少年団本部	常任委員
委員	藤井 学	周南市小学校体育連盟	会長
委員	岡崎 好治	周南市中学校体育連盟	会長
委員	児島 佳子	公募委員	
委員	赤岸 桃子	公募委員	

第 2 期周南市スポーツ推進計画

令和7(2025)年3月

周南市スポーツ振興課

〒745-8655 周南市岐山通1-1

TEL:0834-22-8624 FAX:0834-22-8428

E-mail: sports@city.shunan.lg.jp